

記事内容

- ☆平和行動in広島
- ☆平和行動in長崎
- ☆ネット21「尾瀬の自然に学ぶ親子夏休み体験学習」
- ☆首都圏統一帰宅困難者対応訓練開催案内/もうすぐ選挙/9月行動予定
- ☆あけぼのビル

核兵器廃絶



in 広島

2010 平和行動 in 広島・in 長崎



in 長崎

連合は8月4日～9日の間、被爆から65年を迎えた広島・長崎で平和行動を連合・原水禁・核禁会議の3団体共催で実施しました。連合組合員など約11,000人、連合埼玉からは21名が参加しました。

日程

広島

参加者

- 1日目(8/4)** ■2010「核兵器廃絶2010平和ヒロシマ大会」
 とき 17:30～19:00
 会場 広島県立総合体育館
- 2日目(8/5)** ■「ピースセミナー」
 とき 9:30～11:00
 会場 メルパルク広島
 テーマ ①平和の語り部・被爆体験の証言
 ■「ピースウォーク」
 とき 14:00～
 会場 慰霊碑めぐり(原爆ドーム・平和公園モニュメント)
- 3日目(8/6)** ■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」(広島市主催)
 とき 8:00～
 会場 広島市平和記念公園

- 千原 哲夫 (さいたま地域協議会・埼玉ダイハツ労組)
 成田 信吾 (さいたま地域協議会・埼玉交通大宮支部)
 嵯峨 友成 (朝霞・東入間地域協議会・凸版印刷労組新座支部)
 鈴木 俊美 (本庄・児玉郡地域協議会・埼玉教組児玉大里支部)
 若林 大輔 (自動車総連・八千代工業労働組合)
 下 貴志 (JAM北関東・ユニシアJKC滑川労働組合)
 小林 孝徳 (UIゼンセン同盟)
 小澤 孝至 (情報労連・コムシスウィング労働組合)
 石井 光晶 (情報労連・コムシスウィング労働組合)
 清水 泰 (連合埼玉青年委員会・日本電波工業労組)
 小穴真一郎 (連合埼玉・副事務局長)

広島に原爆が投下された8月6日、広島市主催の「平和祈念式」には、米国のルース駐日大使や核兵器を保有する英仏両国の代表、潘基文(パン・キムン)国連事務総長らが初めて参列し、この初参列について、秋葉広島市長は平和宣言で「核兵器廃絶の緊急性は世界に浸透し始めている」と評価した。また、平和行動の一環で4日に開催された「核兵器廃絶2010平和ヒロシマ大会」には全国から連合組合員など約6,800人が参加し、古賀会長は主催者あいさつの中で、今年5月ニューヨークの国連本部で開催されたNPT(核拡散防止条約)再検討会議で、NGO平和集会・平和アピール行進・原爆写真パネル展を実施したことや、潘基文(パン・キムン)国連事務総長宛の「核兵器廃絶1,000万署名」を提出したことなどを報告した。

千原 哲夫



8月6日、広島駅から平和公園に向かう市電の中。部活動に向かうのか女学生が会話を花を咲かせていた。車窓から見える空は晴れていて今日も暑そうだ・・・

きっと冒頭に「1945年」と入れてもこの文章は普通に成立するに違いない。8時15分のその瞬間までこの町は極めて普通だったはずである。一瞬にして普通が消えてなくなるなどという馬鹿げたことは金輪際させないと、あの日悪魔が舞い降りた空を見上げた。2010年8月6日の空は普通に暑かった。

成田 信吾



私の広島のイメージは原爆ドームやもみじ饅頭しかありませんでした。そして今回初めて広島の地に立ち、当時の話しを聞き原爆ドームを目にした瞬間、涙があふれてきました。こんな感情は自分でもビックリしましたが、参加した皆さんも同じ思いだったと思います。

「原爆はダメ」、「戦争はダメ」と、わかってはいますが、現代の日本はとてつもなく平和で戦争があったことさえ忘れがちでいた自分がとても恥ずかしく思います。これからは、戦争は絶対にしてはいけないと、平和の大切さを一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。

嵯峨 友成



各国のリーダーには特に考えて欲しい。自分さえ良ければ、自国さえ良ければと考えていないだろうか。リーダーの示す方向によってはとんでもないことになる。まさしく戦争がそうなのだ。人の気持ち、痛みがわかる人が各国のリーダーなら戦争なんて起こらない。原子爆弾なんて発想は生まれないはずだ。自分も人の気持ち、痛みをしっかりと考えて行動したい。相手の立場に立って物事を考える。簡単なことだが、自分だけという欲が出ると簡単に崩れ落ちる。相手の気持ちを考えることができなくなり、戦争にまで発展し、原子爆弾で多くの犠牲者を出した事実を決して忘れてはならないと思う。さらには未来に伝えていこうと思う。



平和祈念式の様子



原爆投下前の街並み
(平和記念資料館より)

原爆投下後

鈴木俊美



平和行動の中で一番心に残っているのは、「核兵器廃絶2010平和ヒロシマ大会」での「被爆者からの訴え」広島県被団協会員・葉佐井博巳さんの話の中にあった「8月6日はお祭りの日ではありません。“命日”なのです」という言葉でした。8月6日という日の意味を改めて思いました。たくさんの人が一瞬にして亡くなることの悲しさを考えました。

今生きている私たちは、平和の大切さを本気で考え、守らなくてはいけないのです。

若林大輔



3人の子の親として、犠牲になった子どもたちを思うと涙を抑え切れませんでした。親が懸命に励ます中、苦しみ白目を剥いて亡くなった子。水を数滴口に含み、静かに眠ったかと思うとそのまま息を引きとった子。生徒たちが助けを求める地獄絵図の中、救いようもなく絶望の目で空を見上げる先生。子どもたちが何かの犠牲になる時、それはほとんどがバカな大人たちの仕業です。現代になり、親の虐待で命を落としていく子どもたちもいます。

下 貴志



被爆者の高齢化が進む今、生存者として体験を伝えることが使命という平和の語り部。その中に、「8月6日は命日なのだから、静かに冥福を祈りたい」という言葉があり、深く感じ入った。

広島は被爆しながらも廃墟から復興した街として、世界に向けた平和への発信基地となっている。

我々も唯一の被爆国として、広島に根付いた平和活動をしっかりと展開・継続していかなくてはならないと強く感じた。

小林孝徳



「広島市民にとって8月6日は祭典ではなく命日です」これは平和ヒロシマ大会で被爆者代表の方が話された一節です。広島より遠くにいる私にとってはこの言葉はとても心に残りました。広島は何度か訪れたことがありますが、このような体験者の話を聞くことや、平和祈念式典に出席したことはありませんでしたので、今回の体験はとても有意義でした。原爆投下から65年が経ち体験者は高齢になっています。二度と核兵器を使用することのない戦争のない平和な世界を作るために、この3日間で見たと聞いたことを周りへ伝えていきたいと思います。



2010 平和ヒロシマ大会



連合埼玉 参加者のみなさんで折り鶴を献納

石井 光晶



原爆投下から65年目の「原爆の日」の式典に参加させていただき、いろいろな事を思い、感じました。

上空580mで爆裂した原爆は、一瞬にして表面温度5千度にも達し、火の海と化した街のなかで、何万・何十万人の人が被爆されました。

原爆資料館で展示してある、65年前の8時15分に止まった時計を見たとき、怒りと悲しみが胸に突き刺さりました。

人類だけではなく、地球そのものの驚異となる、戦争や核兵器は小さくなくてはならないと心から思いました。

平和行動に参加してもらい心から、被爆国日本を・核の恐ろしさや惨さを、後世に真剣に伝え続けなければならないと思いました。

小澤孝至



「8月6日は広島の日です」この言葉を聞いた時、広島原爆投下が現実に起きた事なのだと改めて実感しました。今まで被爆者の方のお話を聞く機会がありませんでしたので歴史の一つでしかなかったのですが、直接お話を聞くと「日本で「現実」に起きたことである」ことが伝わってきました。被爆者の高齢化が進んでいるようですがこのような直接お話しが聞ける機会は今後とも続けていかなければならない、それが我々の義務だと思います。

清水 泰



「平和行動in広島」を通じて生まれて初めて広島に行くことができました。広島を知らない方はいないと思いますが、足を運んだことがある方は決して多くはないでしょう。

今回、平和行動に参加して実際に広島の上に立つと、言葉では表現しづらい感情が湧き上がり、わずかに65年前には惨劇が広がっていたという事実を肌で感じる事ができました。この感情を是非、日本全土の方にも感じてもらい、原爆の恐ろしさ、命の尊さを今一度考えていただければ幸いです。

日程

長崎

参加者

- 1日目(8/7)** ■核兵器廃絶2010平和ナガサキ大会
とき 15:30~18:00
会場 長崎県立総合体育館メインアリーナ
- 2日目(8/8)** ■「ピースウォーク」
とき 10:00~11:00
会場 慰霊碑めぐり(長崎市平和公園・原爆落下中心地公園)
■「平和シンポジウムin長崎」
とき 14:00~16:00
会場 原爆資料館大ホール
内容 「2010年核拡散防止条約(NPT)再検討会議の検証及び核兵器廃絶へ向けた更なる取り組みについて」
- 3日目(8/9)** ■原爆犠牲者慰霊平和記念式典(長崎市主催)
とき 10:45~12:00
会場 長崎市平和祈念公園

- 羽田 幸司 (県地域協議会・日弘労働組合)
鈴木 勝宏 (東部地域協議会・NTT労組越谷分会)
鈴木 祐亮 (JAM北関東・富士フィルム労組大宮支部)
武澤 芳浩 (情報労連・新和ユニオン)
佐久間視之 (情報労連・新和ユニオン)
吉田 賢 (埼交運・日本梱包運輸倉庫労組)
藤田 義孝 (運輸労連・ヤマト運輸労組埼玉支部)
加藤 茂夫 (運輸労連・ヤマト運輸労組埼玉支部)
楮本 信明 (連合埼玉青年委員会・東京電力労組)
河西 伸広 (連合埼玉・副事務局長)

羽田幸司



今まで私は、原爆投下の事実をTV・新聞・教科書などにより、歴史上の一つの出来事としてしか認識していませんでした。

今回、「2010平和ナガサキ大会」、「ピースウォーク」、「平和記念式典」に参加して、目で見て・耳で説明を聞き・口で意見交換をする事で、自分自身の現実の経験・知識として得る事が出来ました。

広島での平和行動に引き続き8月7日より、連合平和行動in長崎が開催され連合埼玉からも10名で参加した。7日の「核兵器廃絶2010平和ナガサキ大会」、8日午前中は「ピースウォーク」を午後は「平和シンポジウムin長崎」を平和行動として行い、9日の長崎市主催の原爆犠牲者慰霊平和記念式典へとつなげた。参加者は街全体が核兵器廃絶を訴えているような印象を強く感じ、平和についての考えを深めることができた平和行動であった。

鈴木勝宏



戦後65年となる今年は平和祈念式典に核保有国である各国の代表が参列し、改めて核兵器がまだ世界に数多く存在するということを再認識し、「もう核は要らない」そんな気持ちになりました。
たった一発で多くの人々が犠牲になり今なお長崎には原爆の爪あとが残っています。被爆体験の話を知ると、写真や文章でしか伝えることは出来ませんが改めて被爆者の思いを受け継ぎ伝えていかなければならないと感じました。

鈴木祐亮



核兵器廃絶に向けて大きな前進があった。戦後初めてアメリカが平和式典に参加し、核兵器廃絶の姿勢を見せた。また藩基文国連事務総長が初めての長崎・広島を訪問し、核兵器廃止条約の妥結に向けた姿勢を世界にアピール出来た。
今回の平和活動に参加したことにより、戦争を他人事で終わらせないことが大切だと気付かされた。自分自身も今回の体験を周りの人達に伝え被爆者達の思いを繋いでいきたいと思う。



2010平和ナガサキ大会

武澤 芳浩



「65周年」それは私にとって、とても忘れがたい夏、暑い夏になりました。
2010年平和ナガサキ大会の中で「被爆者の訴え」の一部が、今でも私の心に残る証言がありました。それは、「14、15歳でスコップを持たされて、死体のあとかたづけ」と語られた時でした。それは、自らの年に重ね合わせてしまった時に、自分は何をやってたのだらうかと思ってしまうからです。
最後に、長崎を含め「風化」しない様に、みなさま方の「参加、行動」を続けるべきだと実感しました。



ピースウォークのスタート地点原爆公園

佐久間 視之



原爆投下から65年が過ぎて、今もまだ放射線に苦しんでいる人がいる。核兵器は世界に沢山保有している国もある。核がある以上、長崎の人や広島の人は一生涯恐怖におびえて生きる事になると思う。早く核兵器を全廃し、本当の平和が早く日本にくる様にしたいです。
高校生平和大使や構成詩の思いを次世代に伝えてほしいです。また被爆二世、三世も今も苦しんでいる。この人たちの思いも忘れる事なく平和で核のない世界を日本から訴えなくてはならないと思いました。

吉田 賢



今年の夏は何時になく猛暑の中、このような形で派遣して頂きましたが何故か少し緊張しての参加となった。
長崎に着いて最初の目的である「2010平和ナガサキ大会」の会場について思い描いていた大会とは一転した。主催の三団体が一つになり、また地元の高校生による平和大使の活動等々、いつも目にして新聞やテレビでは伝わらない活動があった。また長年の小さな活動の積み重ねが在るからこそ今があると思った。日々の活動では体験出来ないものを得られた。

藤田 義孝



2010年8月9日午前11時2分、長崎県に一発の原子爆弾がアメリカ軍により投下され、長崎市街地が、一瞬のうちに壊滅状態に追い込まれました。熱線と爆風と放射線と燃え続ける炎により、7万4千人もの尊い命が奪われた。
この惨劇を2度と繰り返さない為に、被爆者の話や、遺族の方々の悲痛な思い叫びを、心に刻んで、戦争や核兵器の無い社会を実現させたい。

加藤 茂夫



原爆資料館で見た、65年前の数枚の悲惨な写真。ピースウォークでは、原爆落下中心地の地層等を見て、真夏にも関わらず寒気を感じる程でした。戦争とは本当に残酷なものです。それにも関わらず、未だに核兵器を保有している国が多数有るとは信じられません。
世界で唯一の原爆被爆国、日本。私達、日本国民の1人1人が核兵器廃絶を全世界へ向けてアピールし平和な世界を築く事が私達の出来ることだと実感しました。



平和公園 平和の泉

「……………」
のどが乾いてたまりませんでした
水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました
どうしても水が欲しくて
とうとうあぶらの浮いたまま飲みました
——ある日のある少女の手記から

楮本 信明



平和行動を通じ、自分自身の原爆に対する関心の薄さに気付かされた。原爆が被害をもたらす、今なお苦しむ人々が沢山居る。そして、2万発以上もこの世界に存在するという事実から目を背けるわけにはいかない。私のように原爆に対して関心の薄い同世代やこれから生まれてくる子どもたちへこの現状を伝えなければならないと強く感じた。原爆・戦争の無い世界を願い、自ら行動していきたい。

ネット21運動

「尾瀬の自然に学ぶ親子夏休み体験学習」



ネット21運営委員会
平尾幹雄さん

今回、初めて尾瀬の自然に学ぶ、親子夏休み体験プランに親子で参加しました。今回の参加のきっかけは、今年からネットワークSAITAMA21の運営委員会のメンバーになったことから、運営委員会の中でも参加促進があり、小学4年生の子どもと参加しました。

1泊2日の行程で、これ程、尾瀬の自然の雄大さ、美しさ、これまでの自然を育ててきた歴史など、今回の体験を通じて、感じさせて頂きました。

1泊2日の行程を簡単に説明すると、尾瀬国立公園(平成19年に国立公園として認定)の中でも、鳩待峠を出発点に、山の鼻～尾瀬ヶ原を歩く一番ポピュラーなコースです。宿泊場所も、東電小屋で、東京電力と尾瀬の長い歴史を感じる山小屋で、山小屋の前では、虫(平家虫)が飛んでいて、とてもファンタジーな世界を感じることができます。

ハイキングの距離も、1日8km～10kmをゆっくり散策でき、散策のガイドの方もいて、尾瀬の地形、動植物、景観等の説明も受けることができ、本当に充実した2日間でした。言葉では言い尽くせない場所であり、尾瀬の自然に唯、感動するばかりです。



集合写真

加藤ファミリー

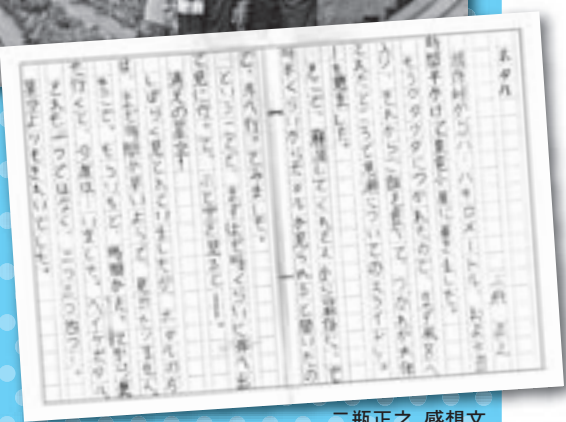


加藤晴菜 感想文

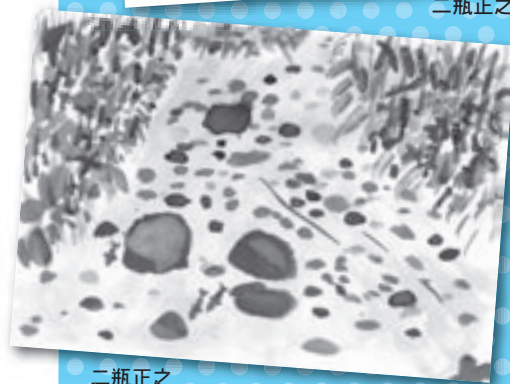


加藤晴菜

二瓶ファミリー



二瓶正之 感想文



二瓶正之



尾瀬を歩く!



町田ファミリー

町田未来 感想文

”尾瀬の自然に学ぶ”

尾瀬で自然の大切さを改めて実感できました。

私たちは大気汚染などが進む中、自然を守っていかなくてはなりません。私も生活の中でエコに心がけ、自然を保護する活動などにも積極的に参加し、少しでも協力していきたいと思いました。

今回は一人での参加だったのですが、次回尾瀬に行く機会があったら家族も連れて行き、一人でも多くの人に尾瀬の素晴らしさを見てもらいたいと思いました。

2日間で約20km歩きましたが、天候にも恵まれ良い運動にもなり、清々しい気分になることができました。とても良い経験をさせていただいた事務局のみなさん本当にありがとうございました。

鈴木裕幸



ちょっとひと休み^^

鈴木ファミリー



昨年引き続き今年も参加させていただきました。行きは同じ道を通りましたが、昨年とはまた違うご説明をいただき、楽しみながら歩くことが出来ました。また、夜には「螢」を見れましたし、2日目は野生の「アカハライモリ」を手にとって見たり、家では味わうことの出来ないとても楽しい時間を過ごせましたし、自然の素晴らしさを親子で共感することが出来ました。

来年も「また行こうね!」と言われておりますので、来年も是非計画を立てていただけることを楽しみにしております。

鈴木 力・諒大(6才)



東電小屋まであと少し!?

ぼくは、8月8日から9日にかけて、尾瀬に行ってきました。尾瀬では、ぼくの好きな動物や自然がいっぱいでした。トンボやイモリ、イワナがたくさんいて、川の音もすてきでした。水の草原いっぱい草花がたくさんあるので、空気もとてもおいしかったです。特に、ぼくの大好きなアカハライモリがいたことに感動しました。おなかの部分が赤い模様のあるイモリで、自然に生息したのを初めて見ました。夜には、熊がでるので、歩けないけど、小屋の近くで螢を見て、捕まえてみました。捕まえるとても小さい螢でした。泊まった部屋には、親子3人いて、子供3人であそびました。とても楽しかったです。また、来年も行きたいと思いました。

平尾倫太郎(10才)

平尾ファミリー

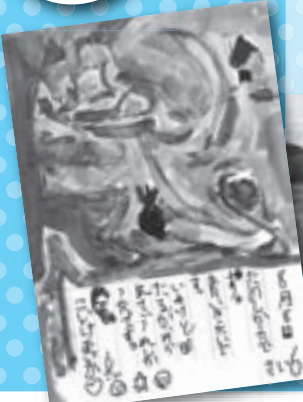


小池ファミリー

小池舞花

我が家では夏休みの恒例のイベントとなっている尾瀬ハイキングも今年で3回目の参加となりました。尾瀬の自然の中でイモリやホタルなど様々な動植物や満点の星空を親子で楽しむことができ、夏休み最高の思い出になりました。

小池 好文・舞花(6才)



藁谷ファミリー

今回始めて参加させて頂き、親子共々驚きの連続でした。

最初「尾瀬」と聞いたイメージは平原の美しい原っぱと言うぐらいしか思っていませんでした。ところがいざ尾瀬の湿原に着きガイドさんの説明を聞くと、

- ・昔ながらで人間が手を加えていない草花
- ・川、本来の美しい透明な水
- ・熊や鳥たちの生き物がすぐ近くに居るなど、昔人間はこういう所に住んで、暮らしていたんだと想像しながら歩いていました。



娘に、一番印象に残った事を聞くと「夜いっぱい螢が見られた事」「夜空一面の星空」「熊が歩いた足跡」と言われ、普段動物園・植物園では体験出来ない事が一番の印象だったのは親としても嬉しい事でした。人工の手入れされた、植物園も美しいですが、やはり自然の美しさは後世に残したいものだ、強く思った出来事でした。

藁谷雄悟・彩音(9才)

巨大地震に備える 2010年度首都圏統一帰宅困難者対応訓練開催!!

日時:2010年9月25日(土)9:00受付 10:00出発

- ①埼玉コース ・集合・出発場所 日比谷公園 中央噴水付近
 ・コース 日比谷公園～日光街道(国道4号)～草加市綾瀬川左岸広場 約20km
- ②県内コース ・集合・出発場所 埼玉県庁
 ・コース 埼玉県庁前～外環自動車道下道～草加市綾瀬川左岸広場 約18km

首都圏直下型の大地震が懸念されるなか、災害時に公共交通機関が麻痺し650万人もの帰宅困難者が発生すると想定しています。

連合埼玉としては上記の「埼玉コース」または「県内コース」について参加者を募集します。

自宅への経路と異なっても、徒歩帰宅時の体験や沿道支援の意義など、多くの気づきがあります。ご家族そろって災害時の対応を話し合うきっかけにもなりますので、積極的な参加協力をお願いします。

2009年度首都圏統一帰宅困難者対応訓練▶



= もうすぐ選挙 =

埼玉県議会議員
補欠選挙

◆木下 高志 (きのした たかし) 50才(民主党推薦・新・連合埼玉推薦初)
告示日:2010年9月3日(金) 投票日:2010年9月12日(日)

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 水		連合関東ブロック第20回海外交流南アジア視察団渡航説明会・結団式(15:00～:連合東京)
2日 木		①連合第4回地方連合会事務局長会議(13:30～:総評会館) ②全労済経営委員会(～3日)
3日 金	①連合埼玉「男女平等参画推進委員会・女性委員会・青年委員会」合同会議(13:30～:あけぼのビル501) ②民主党埼玉県連男女共同参画委員会との懇談会(15:30～:あけぼのビル501)	比企地域協議会研修会(9:00～4日・伊香保)
4日 土		
5日 日		
6日 月	第10回四役・執行委員会	中央労福協第42次欧州労働者福祉視察(6日～16日)
7日 火		第36回地方連合会女性代表者会議(11:00～:女性と仕事の未来館)
8日 水	UIゼンセン同盟第9回定期大会(10:00～:大宮ソニックシティ)	UIゼンセン同盟第9回定期大会(10:00～:大宮ソニックシティ)
9日 木		第2回地協議長事務局長会議(あけぼのビル)
10日 金	①女性のためのSTEP UPセミナー(～11日・国立女性教育会館) ②平和行動in根室(～13日)	
11日 土		電機連合結成50周年記念祝賀会(18:30～:浦和ロイヤルパインズホテル)
12日 日		
13日 月		
14日 火	①ネット21運動「第4回運営委員会」(10:00～:連合埼玉会議室) ②第4回組織委員会(15:00～:連合埼玉会議室)	運輸労連第43回定期大会(10:00～:さいたま市民会館おおみや)
15日 水		①全国高齢者集会 ②朝霞・東入間地域協議会幹事会(18:30～)
16日 木		中央労金埼玉県本部第3回運営委員会(10:00～:県本部)
17日 金	第20回チャリティーゴルフ大会(平成倶楽部鉢形城コース)	
18日 土		
19日 日		連合関東ブロック第20回海外交流南アジア視察団(～24日)
20日 月		
21日 火		①地域労福協代表者会議(10:00～:ときわ会館) ②あったか子育て企業員選考委員会(13:00～:埼玉県産業労働部会議室) ③埼玉労福協「ゆとり創造フォーラム」(13:30～:ときわ会館) ④さいたま市議会議会改革等調査会(14:00～:議長応接室)
22日 水		
23日 木		
24日 金		
25日 土	2010年度首都圏統一帰宅困難者対応訓練	
26日 日		埼玉労福協第11回東南アジア労働福祉事情視察団(～10/2)
27日 月		埼交連第23回懇親交流ゴルフ大会(コート栃木プレゼンターC・C)
28日 火	政策制度要請(11:40～:県庁)	
29日 水		
30日 木		

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇猛暑が伝えた社会の実態と盲点

今夏は猛暑が続き、熱中症による救急搬送や死亡事故が後を絶たない。さいたま市で発生した76歳無職男性が熱中症で死亡した事件は、マスコミに大きく取り上げられた。亡くなった男性は48歳無職の長男と同居しており、2カ月で十数万円の年金だけが収入源であった。マスコミの取材によると長男は10年ほど前に生活保護を申請したが認められず、困窮生活が10年続いていたという。

また、新宿区では48歳の男性が自宅アパートで亡くなっているのが発見され、死後数時間が経過していたにもかかわらず、体温が40度を超えていた。部屋にはエアコンどころか扇風機もなかったという。男性は数年前まで公園で野宿生活を送っていたが、支援団体の支えもあって、生活保護を受けずに自立への道をまじめに歩み、1年ほど前に就職し熱心に働いていたという。

亡なられた方々の冥福を祈るとともに、この報道から改めて、生活保護を取り巻く課題、低所得者の自立の実態など、その盲点が浮き彫りとなった。

◇急増する生活保護受給者

日本国憲法第25条は「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国はすべての生活部面において社会福祉、社会保障および公衆衛生の向上および増進に努めなければならない」と国民の生存権の保障について規定しており、現行の生活保護制度はこの理念に基づき1950年に制定された。

埼玉県的生活保護の現状は、リーマンショック時の2008年9月には39,491世帯であったが、今年5月には52,040世帯となり、12,549世帯、約32%の増加となっている。生活保護受給者の増加要因は、日本の社会構造や家族構成の変化が大きく起因していると考えられる。従来からの母子家庭や高齢者世帯の増加に加え、近年の経済不況による低所得者層の急増があげられる。さらに、社会や地域から切り離され、家族とのつながりすらなくなっている低所得者や生活保護受給者は少なくない。

◇地域における「見守りと支えあい」

生活保護法は、生活困窮者の「保護」と「自立支援」を目的としており、格差問題や貧困問題が叫ばれて久しい日本社会において、正に生活保護制度は国民の最後のセーフティーネットであり、その実態や有効性などが注目される。一方、生活保護を巡る問題も多く、水際作戦に代表される不当な生活保護受給権抑制や地域格差等の行政側の対応に起因する問題、受給資格要件を満たしていないにも関わらず生活保護を受給する者や生活保護受給者が負うべき義務を怠る者などの被保護者による不正受給問題等、生活保護行政の現場の対応能力も限界に達しつつある。

また、真面目にコツコツと働いているにもかかわらず、生活保護の受給基準である「最低生活費」未満で暮らす世帯が少なくない。2007年の国民生活基礎調査をもとに、厚生労働省が推計したところ、生活保護受給世帯は108万世帯であるが、それ未満の収入で生活している世帯は597万世帯に上った。先に記述したが生活保護制度は生活困窮者の「保護」と「自立支援」を目的としており、いのちを守るために経済的に生活を支える生活保護が、それ未満の収入で生活する597万世帯よりも、すべてとは言わないが、安定した生活を保障するものとなり、自立への自助努力や労働意欲の欠如に繋がってはいないだろうか。

埼玉県は、職業訓練を受講させ自立を促進するとともに、学習の機会の提供により子どもへの貧困の連鎖を断ち切るなど、生活保護受給者に対する支援事業として「生活保護受給者チャレンジ支援事業」の実施を決定した。この事業を単に生活保護受給者の経済的自立を目的とするだけでなく、地域において失われつつある「絆」を再生させ、地域全体で低所得者や生活保護受給者、高齢者や一人親家庭などの生活的自立と社会的自立を実現するための足掛かりとしてほしい。

労働者ならびに働く意欲のある人々の社会的・生活的自立をめざし、地域における「見守りと支えあい」による、格差・貧困・差別・社会的排除のない社会の構築にむけて、私たちはどのように運動を進めていくべきか、今後、議論を深めたい。